

## 第1回 介護現場革新会議

# 全国老協の取り組み

平成30年12月11日（火）

# 全国老人福祉施設研究大会 昭和62年度から実施（今年で32回目）

各事業所で取組んでいる実践研究を分科会テーマに基づき発表。研究発表の資料については、本会ホームページに掲載をすることで、会員施設間の情報共有を図っている。

【平成30年度分科会テーマ（参考）】

10/31 水 2日目		分科会プログラム
① 分科会テーマ会場		
分科会	テーマ	会場
第1	<b>伴走型介護の追求—QOL向上に資するケアの実践—</b> ▶認知症ケア ▶高齢者介護 ▶自立支援介護 (ADL・QOL向上) ▶移行支援 (高齢者施設、居宅実務等) ▶施設内への取り組み ▶職能訓練 (リハビリテーション) ▶医療・介護の連携 ▶認知症ケアの活用とアウトカム評価 ▶認知症ケアの連携	
第2	<b>未来とともに歩む社会福祉法人（特養）の経営</b> ▶社会福祉法人経営（経営・運営） ▶地域資源の創設（総合福祉利用事業など） ▶地域に於ける公的的な取り組み ▶財務分析による経営の透明化・適正化 ▶高齢者の権利擁護の取り組み ▶法人の意識と連携や広域連携 ▶効果的な人材確保の工夫や効率化 ▶地域共生社会の実現に向けた取り組み	
第3	<b>未来型介護を拓く「人づくり」戦略</b> ▶組織改善の取り組み ▶人材育成・定着に向けた取り組み ▶キャリアパス ▶求人・採用の工夫 ▶人事評価、労働管理、福利厚生 ▶多職種連携、法人間連携による研修 ▶「人づくり」導入による生産性向上 ▶新たな働き方、ワークライフバランス ▶地域連携介護総合推進基金の活用 ▶地域人材の活用 ▶外注人材の活用	
第4	<b>在宅医療・介護を繋ぐこれからの在宅サービス</b> ▶在宅医療・介護に向けた取り組み ▶地域共生社会の実現に向けた取り組み ▶地域連携事業 ▶保険外サービスの展開 ▶ケアサービス・ショートステイ、訪問サービス、地域密着型サービスの開発 ▶多職種連携による機能訓練 ▶地域に根ざしたケア・フレイル予防 ▶認知症ケア（認知症対応型ケア）のケア ▶AI・ICT活用や在宅ケア	札幌コンベンションセンター 札幌市産業振興センター ※申込み状況により、会場を切り替えます
第5	<b>入居者とともに地域を創る経営・ケアハウスの取り組み</b> ▶入居者の健康維持・フレイル予防 ▶「生きがい」づくりと社会参画への取り組み ▶施設改善に向けた取り組み ▶施設ケア ▶高齢者向けサービス提供の受け入れ ▶高齢者への対応や医療との連携 ▶特定居入高齢者生活介護の施設 ▶入居者の健康維持や認知症予防	
第6	<b>養護老人ホームにおける包括的支援と尊厳の探求</b> ▶入居者の健康維持・フレイル予防 ▶「生きがい」づくりと社会参画への取り組み ▶中核的役割の取り組み ▶施設改善に向けた取り組み ▶認知症ケア ▶高齢者向けサービス提供の受け入れ ▶病を患った対応 ▶地域連携事業 ▶介護サービスや一般型特定居入の運営・運営体制	
先駆的特別報告会場	<b>「介護ロボット」及び「ICT」の導入・活用による業務改善と負担軽減に関する検証・研究</b> ※老老介護研究調査研究協議会事業担当者による先駆的特別報告のみの会場となります	



# 平成29年度全国老人福祉施設研究会議(高知会議)における 実践研究発表の実績 第3分科会『人材課題先進分野としての介護(実践と挑戦)』



『New Face は原石！？～施設みんなで取り組んだ人財（人材）育成～』

特別養護老人ホーム八色園／新潟県／井口 明美

審査員コメント

取り組み前後の成果が数字でわかりやすく、成果が一目で理解できる報告であった。取り組みと成果を構造的に捉えて、しっかりと適切な取り組みつなげている点が優れていた。

報告を通じて、人を大切にしたい取り組みが人材育成やケアの質の向上につながり、そのことが、離職率ゼロの成果となったことは素晴らしいと思う。

報告に当たって、緊張されていたように感じた。当然のことであるが、いま少しイキイキと報告していただくと、優れた内容が一層魅力的になると思う。



## New faceは原石！？

～施設みんなで取り組んだ人財育成～



魚沼地域特別養護老人ホーム組合  
特別養護老人ホーム 八色園  
井口 明美

### 職員育成100日プログラム」実行計画書

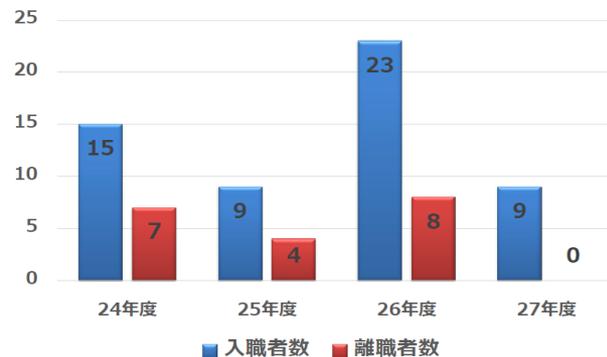
#### ②外部ツール

開始日	10日目	30日目	40日目	50日目	70日目	80日目	90日目	100
4月3日(金)17:15～18:15		OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK
4月20日 (水)	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK
4月15日～4月20日	4月25日～4月30日	5月15日～5月20日	5月25日～5月30日	6月5日～6月9日	6月20日～6月28日	7月5日～7月9日	7月19日～7月21日	7月26日～7月28日

100日プログラム 30日各種テスト実施  
DVD・テキスト配布

30日各種テスト実施  
チェックシート  
ヒアリング(1週間)  
チェックシート  
ヒアリング(1週間)

## 活動の成果と評価



# 平成28年度全国老人福祉施設研究会議(長崎会議)における 実践研究発表の実績 第3分科会『介護人材の定着・確保・処遇改善に関する取組』



『人材から人財へ 育成・定着を図る取組み～認め高めあえるチームづくり～』

特別養護老人ホーム あすなる園／岡山県／猪木 佑一

審査員コメント

着眼点が明確であり、いずれの事業所でも取り入れられやすい、組織の改善につながる提案であった。丁寧な手法かつ悪い所探しでなく、良い所探しというところも実践し得る、継続しやすい取組みであった。プレゼンも緩やかで、明瞭な声で聞いていて説得力があった。



## 人材から人財へ 育成・定着を図る取組み ～認め高めあえるチームづくり～

社会福祉法人松園福祉会  
特別養護老人ホーム あすなる園

介護主任 猪木 佑一

### 平成26年・平成27年 ESアンケート 実施内容及び評価方法

- ◎実施内容
  - ・設問26項目
  - ・職場の人間関係やしごとの楽しさ等
  - ・設問毎に回答者の感覚で回答
  - ①(非常に少ない)～⑤(たいへん多い)
- ◎評価方法
  - ・全体に占める④と⑤を合わせた割合を前年と比較
  - 2. 職場に居ると楽しく感じる

	1	2	3	4	5
H27	10%	15%	45%	23%	7%
H26	11%	22%	51%	14%	2%

※ 対象職員数に差があるため、年次毎の総対象者比(%)として表示

### あすなる”イネ”システム (法人内共通システム)



# 平成27年度全国老人福祉施設研究会議(山形会議)における 実践研究発表の実績 第3分科会『介護人材の定着・確保・処遇改善に関する取組』



『高卒・未経験者を迎えて～共に成長するために～』

洲本特別養護老人ホーム ラガール／兵庫県／上野 由美

審査員コメント

思い切って高校生を採用し、育成のために施設が取り組み、その成果が分かりやすく表現されていた。反省や意見交換を行い、年々確実に意識改革をして、教育に時間をかけたことが良い結果を生んでいる。このような施設が増えてほしい。



## 高卒・未経験者を迎えて

～共に成長するために～

洲本特別養護老人ホームラガール

介護福祉士 ○ <sup>うえの</sup>上野 <sup>ゆみ</sup>由美

介護福祉士 榎木 誠



### 新人研修プログラム

初日		2日目	
時間	内容	時間	内容
9:30~	社会人としての心構え 相談員の役割	9:30~	シーツ交換の仕方 介護実習(移乗・排泄介助・更衣介助など)
10:00~	職務の理解(DVD) 高齢者・認知症について 身体拘束について	12:00~	休憩(1時間)
11:00~	高齢者の病気 バイタルチェック 胃腸・吸引・褥瘡について 胃腸注入の見学 キザミ食・ミキサー食の試食	13:00~	介護実習(移乗・排泄介助・更衣介助など)
12:00~	休憩(1時間)	15:15~	質疑応答
13:00~	介護支援専門員とは ケアプランについて	16:30	
13:30~	手洗いについて(DVD) 実際に手洗い		
13:50~	介護技術(DVD) 説明		
15:30			

平成29年度 全国老人福祉施設研究会議(高知会議)

第5回

由緒ある賞



福泉 加奈氏 西川 奈緒美氏

社会福祉法人 溪流会 特別養護老人ホーム草花苑(東京都あきる野市)  
社会福祉法人 ほうえい会 特別養護老人ホーム栄光の社(東京都西多摩郡)

介護職員が学生に「介護の魅力」を伝える～他法人協働で目指す「未来の仲間」への呼びかけ～



## 介護職員が学生に「介護の魅力」を伝える

～他法人協働で目指す「未来の仲間」への呼びかけ～

さんえんキャンプ実行委員会  
特別養護老人ホーム 草花苑 福泉加奈  
特別養護老人ホーム 栄光の社 西川奈緒美

私たちがすべき事とは？

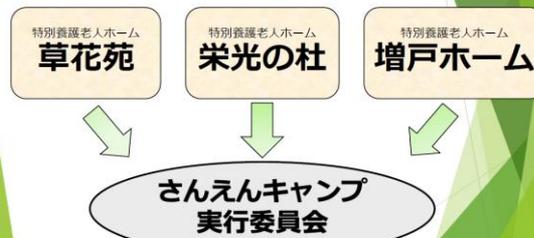
介護人材難対策の為に・・・

共に働く「未来の仲間」となる学生へ

→ 介護職員が「介護の魅力」を伝えていく  
その活動が

介護の**イメージ向上**へつながる

さんえんキャンプとは・・・



## さんえんキャンプ活動内容

学校訪問

説明会参加学生数  
延べ250名  
活動に関わって頂いた先生方  
延べ20名

- ・実習との違い
- ・将来共に働く仲間
- ・主旨が強く伝わる

↓  
学生の不安を軽減

## さんえんキャンプ活動内容

ADLケアの関りの中にも、  
お年寄りの想いがあり、  
それをくみ取り実現していく

実現できなかった理由として・・・

墓地の環境がバリアフリーではなかった為、  
ご家族だけではお連れするのが難しかった

## 提案・発信

介護人材開拓の為に  
人が足りない→

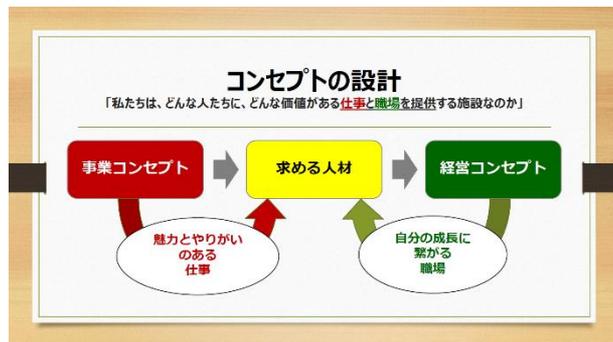
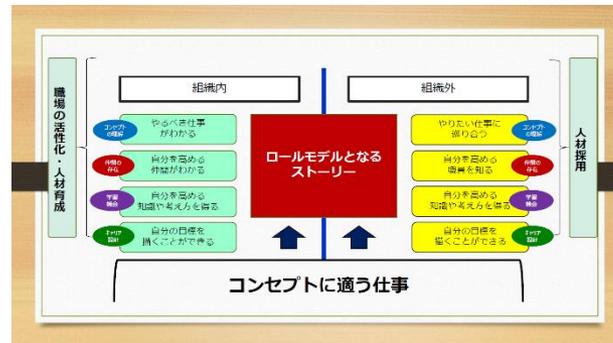
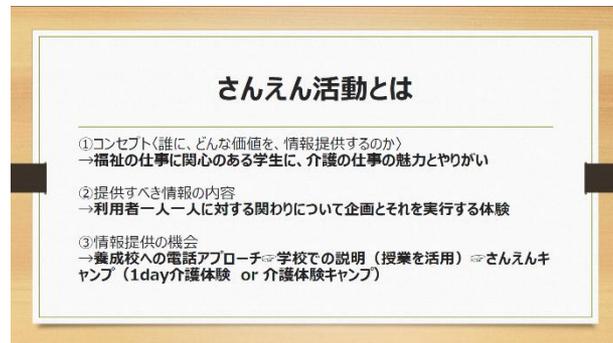
流行りに乗った人材募集  
安易な国内外からの  
人集め(頭数だけ?)

必要とされているのは  
「介護の魅力」を理解して活躍できる人材

平成30年度

# 「介護人材の確保・定着を目的としたプラットフォーム構築事業」

介護人材の確保・定着を目的としたプラットフォームの構築の基盤づくりとして、先駆的に実施されている好事例（平成29年度中村ひろひこ賞受賞施設の事例他）を全国数箇所でモデル事業として実施、検証（横展開）し、エッセンスを具体化・普遍化する作業に取り組んでいる。



介護人材対策委員会事業所にて、ローカルモデルとなる事業を実施中



# いま介護現場に必要な ICT 導入促進セミナー

～ICTによる介護のパラダイムシフトにより自己実現介護の確立を目指す～

## 開催趣旨

高齢化のピークとなる 2025 年には、約 38 万人の介護人材が不足するという国の推計が示されました。一方で、高齢化の進行により介護ニーズが増大していくなか、社会保障制度の持続と財源の確保も重要な課題となっています。

少子高齢化が進むわが国において、労働人口を増やすことは難しく、限られた人材や資源を有効に活用し、これまで以上に生産性・効率性をあげていくことは、介護分野のみならず国内の全産業の喫緊の課題となっています。

このような課題を解決する手段のひとつとして、政府は ICT・ロボット等次世代型介護技術の活用により、介護のパラダイムシフトをおこし、「予防・健康管理」と「自立支援」を軸とした新しい医療・介護システムの本格稼働を目指しているところです。

しかしながら、多様な介護ニーズに対応するには、介護従事者個々のスキルアップによるサービスの質・量の向上が不可欠であり、人による介護の素晴らしさをこれまで以上に人らしく、人によって発揮していく必要があります。

業務の効率化、省力化にとどまらず、人による介護が最も長じている専門的ケアに一層注力できる環境整備（最適化）と、ICT の活用により集積したケアのデータベース化により科学的に裏付けされた自己実現介護の確立を目指し本研修会を開催いたします

### 【プログラム】

時間	内容
10:30～10:40	開会挨拶 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
10:40～11:10	基調報告 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
11:10～12:10	行政説明 「ICTの活用による介護のパラダイムシフトの実現 ～ビッグデータの分析と科学的な裏付けによる真の自立支援の確立とは～」 厚生労働省 老健局 振興課 基準第一係長 林 英典 氏
12:10～13:10	昼食休憩
13:10～14:10	講演「介護の質を高める ICT の利活用について～介護業務の最適化に向けたデータの利活用と可能性」 株式会社ビーブリッド 代表取締役 竹下 康平 氏
14:10～14:20	休憩
14:20～15:30	実践発表「先駆的導入事例から紐解く介護現場における ICT の活用と自己実現介護」 【発表施設】 特別養護老人ホーム第二松丘園（千葉県） ガーデンハウス明範荘（愛知県） 【コーディネーター】 株式会社ビーブリッド 代表取締役 竹下 康平 氏

平成 29 年度

# いま介護現場に必要な ICT・介護ロボット 導入促進セミナー

～ICT・介護ロボットで介護の未来を切り開く！～

## 開催趣旨

平成 29 年 12 月に閣議決定された新しい政策パッケージにおいて、少子高齢化への対応として「生産性革命」の牽引と 2020 年度までにこれまでの制度や慣行にとらわれない「人づくり革命」による社会保障の充実と安心できる社会基盤の構築により、一億総活躍社会を目指すことが示されました。

その中で、生産性が伸び悩む分野における制度改革として、介護分野における「自立支援介護の促進」、「介護の ICT 化」、「ロボット・センサーの活用」が挙げられ、こうした流れをうけ ICT 等の技術革新による生産性の向上により質が高く、効率的な介護サービス提供を可能とするシステムの構築を目指すこと、平成 30 年度介護報酬改定において介護ロボットの一つである「見守りセンサー」の導入により夜勤体制の充実、利用者の生活の質の維持・向上、介護者の負担軽減が図られた場合には、人員・設備基準の緩和により制度上の評価を行う方針が固められました。

しかしながら、介護現場における ICT の活用、介護ロボット等の導入については、深刻な人材不足に悩む介護現場の負担軽減にむけた有効性に理解を示しつつ、導入にかかる費用やインフラ整備、定着にむけた体制整備など障壁が多く、普及が膠着しているのも事実です。

本セミナーでは、介護現場における ICT・介護ロボット等の導入の目的、メリットの理解を深め、活用にもつて施設が取り組むべき事項について学ぶことで、介護の未来につながる ICT・介護ロボットの導入促進を図ることを目的に開催いたします。

## 【プログラム】

時間	内容
10:30～10:40	開会挨拶 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
10:40～11:20	基調報告 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
11:20～12:20	講演Ⅰ 「ニーズとシーズのマッチングから見てきた ICT・介護ロボットの導入と活用」 ※パナソニック（株）ロボット事業推進センター所長等を務め、2013 年より大阪工業大学ロボット工学科教授、ロボティクス&デザインセンター長兼任。国立研究開発法人日本医療研究開発機構プロジェクトスーパーバイザー、生活支援ロボット市場の創造を支援するアルボット（株）代表も兼任。厚生労働省が 29 年度実施した「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」にも委員として参加された実績から介護老人福祉施設における ICT・介護ロボットの導入・活用の現状や課題についてご講演いただきます。 大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 教授 本田 幸夫 氏
12:20～13:20	昼食休憩
13:20～14:20	講演Ⅱ 「介護記録の ICT 化・AI 活用で未来の介護を拓く」 ※認知症高齢者に対する介護のあり方について、長年にわたる臨床データの蓄積と、科学的な分析に基づくケア理論“Kyoumation Care”を提唱・実践。認知症ケアの教育や研究をベースに従来の介護者の経験や感覚に頼る方法から脱却し、ICT・AI の活用による新たな情報集約・解析ネットワークの構築等により、認知症ケアの可能性を拓く先駆的検証事業の報告を行います。 一般社団法人認知症高齢者研究所 代表理事 羽田野 政治 氏
14:20～14:30	休憩
14:30～16:00	実践報告「介護老人福祉施設における効果的な介護の実現のための ICT・介護ロボットの導入について」  【報告施設】 社会福祉法人慶生会 特別養護老人ホーム和光苑（大阪府） 社会福祉法人善光会 特別養護老人ホームフローズ東稲谷（東京都） 社会福祉法人三篠会 特別養護老人ホームひうな荘（広島市）  【コーディネーター】 株式会社三菱総合研究所 ヘルスケア・ウェルネス事業本部 ヘルスケア・データ戦略グループ 齋藤 顕晃 氏

# カントリーミーティング事業 (平成13年度から18年継続して実施)

これからの介護・福祉を担うリーダーを中心とした研修。当事者として責任をもって、同じテーマに向き合い、介護現場のあるべき姿、今後の展望についてディスカッション形式で、情報交換や議論を行っている。

【平成30年度ディスカッションテーマ（参考）】

Talk about <バズワード> 介護・福祉が**未来**を拓く

③人材戦略・人づくり

◆人材の確保・定着・育成に向けて、より細やかな戦略を考える  
◆現場が求めるスキル・人づくりの方向性は？

【例えば…】人材戦略・人づくり  
×手がかりワード「まちづくり・情報連携」

- > セーフティネットとしての役割と機能
- > 地域を支える介護・福祉人材
- > 各施設・事業所の好事例の集約
- > 新たな情報連携の仕組み など

×「看取り」…？  
×「現場ニーズ」…？



Talk about <バズワード> 介護・福祉が**未来**を拓く

⑤生産性向上

◆従来の発想にとられない、少子高齢化の進行に耐える介護現場を「生産性」を高める観点から考える

【例えば…】生産性向上  
×手がかりワード「保険外サービス・混合介護」

- > サービスの効果・効率化の視点
- > 既存の制度では対応できないニーズ・規制緩和
- > デイサービス等との柔軟な組み合わせ など

×「現場ニーズ」…？  
×「認知症」…？

